

医療事故情報収集等事業

医療
安全情報

No.194 2023年1月

テスト肺使用による
人工呼吸器回路の再接続忘れ

体位変換などの際、人工呼吸器の回路を患者から外しテスト肺を接続したため、人工呼吸器のアラームが鳴らず、患者に回路を再接続していないことに気付くのが遅れた事例が3件報告されています（集計期間:2019年1月1日～2022年11月30日）。この情報は、[第70回報告書「事例紹介」](#)で取り上げた内容をもとに作成しました。

患者から外した人工呼吸器の回路にテスト肺を接続したため、人工呼吸器のアラームが鳴らず、患者に回路を再接続していないことに気付くのが遅れた事例が報告されています。

事例のイメージ



◆テスト肺(テストラング)は、人工呼吸器の作動の確認を行う際に使用するものです。

テスト肺使用による人工呼吸器回路の再接続忘れ

事例 1

看護師は、人工呼吸管理中の患者の体位変換を行う際、人工呼吸器の回路を気管切開チューブから外し、テスト肺を接続した。体位変換後、患者の呼吸状態や人工呼吸器の回路の接続を確認しないまま退室した。8分後、セントラルモニタのアラームが鳴り、SpO₂ 85%、心拍数40回/分であることに気付いた。看護師が訪室したところ、患者に人工呼吸器の回路を再接続していなかったことが分かった。

事例 2

看護師は、人工呼吸管理中の患者（自発呼吸あり）の体位変換を行う際、人工呼吸器の回路を気管切開チューブから外し、テスト肺を接続した。体位変換後、患者に人工呼吸器の回路を接続せず退室した。看護師は、5分後に患者の経管栄養を開始し、30分後には人工呼吸器の加温加湿器の蒸留水を交換したが、患者の呼吸状態や人工呼吸器の回路の接続は確認していなかった。体位変換から1時間後、患者の家族が来院し、患者に人工呼吸器の回路が接続されていないことに気付いた。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・人工呼吸器を装着している患者のもとを離れる際は、回路が患者に接続されていることや、患者の胸郭の動きを確認する。

上記は一例です。自施設に合った取り組みを検討してください。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。

本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。 <https://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<https://www.med-safe.jp/>